

🕒 2018/04/29

「イノシシとキツネ」というお話がイソップ寓話（ぐうわ）集にある。イノシシが一生懸命に牙を研いでいる。それを見て、キツネが尋ねた。「猟師はいないし危険が迫ってもないのに、なぜ研ぐの?」。するとイノシシはこう答えた◆「俺はなにも目的もなくこんなことをやってるんじゃない。もし危機が俺を襲ったら、牙を磨いている暇なんてないんだから」◆東日本大震災で児童らが命を奪われた石巻市立大川小の津波訴訟で、仙台高裁が市や学校の過失を認めた。避難などについての事前対策が不十分と手厳しい。寓話に重ねれば、危機が迫っていないうちに身を守る牙をなぜ研がなかったかと問うている◆多忙な教育の現場からは複雑な思いが漏れる。しかしたくさん命を預かり、大きな災害があれば住民も身を寄せる。命を守るべきその学校で命を落としてはいけない。それだけの使命を背負うということだろう◆原告副団長の心境を地元紙・河北新報で読む。亡くなったのは3年生の一人息子だ。「『行ってきます』と家を出た子どもを、『ただいま』と帰るのが教育の原点ではないか」。一言一言が重く、胸にしみる◆兵庫に目を移せば、南海トラフの巨大地震はいつ何時か。大川小の悲劇は遠い話ではない。守りの牙を研ごう。2018・4・29